

東北情報通信懇談会 資金支援事業実施概要報告書

支援: 様式4

事業の名称	Web×IoTメイカーズチャレンジPLUS in 秋田		
開催日	令和6年10月5日6日、11月16日17日	開催場所	秋田市 (株式会社渡敬 秋田支店 Live Office)
会場来場者人数	ハンズオン講習会: 15名 ハッカソン: 15名 (3チーム)	実施結果に対する感想・反省等	開催2年目の今年度は、運営委員に地元高等教育機関関係者を増員し、秋田県職員互助会、東北情報通信懇談会、地元企業様の資金援助による地域連携での開催が実現できて良かった。
主催団体等	主催: Web×IoTメイカーズチャレンジPLUS秋田運営委員会 共催: 一般社団法人秋田県情報産業協会 特別協力: 株式会社渡敬 協賛: 東北情報通信懇談会、北日本コンピューターサービス株式会社、ADK富士システム株式会社、山ニシステムサービス株式会社、株式会社秋田ケーブルテレビ 協力: 秋田大学、秋田県立大学、秋田工業高等専門学校、秋田情報ビジネス専門学校、秋田コアビジネスカレッジ、CHIRIMEN Open Hardware、Web標準・ICT利活用人材育成地域連携協議会 後援: 総務省東北総合通信局、秋田県		3月16日開催Web×IoTメイカーズチャレンジPLUS全国大会(秋田・信州・愛知・三重・鳥取・岡山・徳島・香川の最優秀賞受賞チームによるプレゼンと最終投票)での秋田県最優秀賞チームの活躍を期待したい。
実施行事概要	県内の将来人材がセンサーやモーターなどをWeb標準技術(JS)から制御する方法等を学ぶハンズオン講習会を実施し、その知識や技術を活かして「IoTで描くミライ秋田びじょん」をテーマにしたハッカソンを実施した。ハッカソンや開発力の習得に関心のある方が今回初めて参加。6割がプログラミング学習経験者であったが、実習形式のハンズオン講習会を受講して良かった・とても良かった回答64.3%、ハッカソンに参加して良かった・とても良かった回答93.3%だった。(アンケートより)		反省点は、参加者アンケートの結果から、開催時期と成果プレゼンに対する評価方法の見直しあげられる。
			第3回目の開催となる来年度は、今年度と同規模の開催を予定。開催時期は未定。



最優秀賞: 番犬(検)ロボコジラ

(チーム名: くまバスターズ)

秋田で深刻化している熊被害を減らすためのIoTシステム。熊が檻にかかり暴れることで圧電マットが発電し、その電力で熊の検知システム稼働する。熊を識別し通知するシステムには物体検出アルゴリズムを活用。通知時に「番犬ロボコジラ」が犬小屋から出動し警告を行う。電力確保が困難な森での使用を想定し、発電装置や省電力設計を採用。また、市販されていない部品は3Dプリンタで製作し、Google Apps ScriptやGoogle Colaboratoryを使いスケラブルなシステムを構築した。

